

(メッセ海外通信 2008年10→12月号掲載記事)

～ボーダーレスな時代の交流発展について～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)
藤川 雅宏

■海路利用の進展

9月6日付「東亜日報」によると、来年3月頃、韓国・中国・日本・ロシアを海と陸地で結ぶ航路が開設され、4カ国間の物流時間が大きく短縮される見通しです。韓国東海岸の束草～日本の新潟～ロシア・ザルビノを結ぶ海路が開かれ、ザルビノから中国の琿春までは陸路で結ばれることとなります。この新しい航路の開設によって、韓国の首都圏から釜山～下関を経由している物流の流れに変化が生じる可能性が考えられます。一方、9月9日付「聯合ニュース」によると、韓進は、釜山の竜塘税関倉庫に660平方メートルの特別配送通関センターを自前で開設し、韓国と日本を結ぶ国際海上宅配サービスを開始することを明らかにしました。同社は、このサービスで仁川空港税関を経るという不便さがなくなり、釜山と慶尚道地域の顧客や荷主が韓日国際宅配サービスを便利に利用できるようになったと説明しています。航空運送に比べ運送料金は最大で約6割安く、運送期間は同じか1日遅い程度となるようです。また、8月21日付「聯合ニュース」によると、7月1日から8月15日までに釜山港を利用して出入国した韓国人は前年同期比8.6%増の22万2559人と集計され、原油高で航空運賃が大きく上昇し、相対的に運賃が安い旅客船の客足が伸びたようです。釜山からの国際定期旅客航路は、すべて日本と結ばれており、釜山港の韓国人出入国者数の増加は日本への観光客数の増加ということになります。

■鉄道整備の進展

7月9日付け「東亜日報」によると、京釜高速鉄道の第2段階事業（区間：東大邱～新慶州～蔚山～釜山）が2010年12月に終わると、ソウル～釜山の運行時間が2時間45分から2時間10分に短縮されます。釜山駅が増築され、釜山の北港開発が完成すれば、1日に15万人以上を乗せる交通観光の中心軸になるものとみられています。韓国内での移動の利便性が高まることによって、山口県・九州と韓国の各都市圏との経済交流が、釜山を中心にさらに広域エリアへと拡大していくものと考えます。

■日韓交流の発展

濱崎康一総督（代表）率いる下関市のよさこいチーム『馬関奇兵隊』が8月29日に釜山を訪ね、韓国の大学生15人に『よさこいレクチャー』を行いました。在釜山日本国総領事館主催の日本語弁論大会で一昨年『下関市長賞』を受賞した安恵臨さんの呼びかけで釜山の大学生が集まり、『よさこい交流』が実現しました。現在、安さんら数名が中心となり、馬関奇兵隊釜山支部の創設を目指して、練習に励まれています。

釜山広域市と下関市の間では、姉妹都市交流にとどまらず、お隣の都市の友人として、いろいろな個人や団体によって草の根の国際交流が活発に進められています。

文化、観光、物流、ものづくり、環境等、いろいろな側面でボーダーレスな時代の交流発展を期待します。